

2020年10月28日 千葉大学アカデミック・リンク・センター
ALPS プログラム第6回シンポジウム 新型コロナ禍の下での教育・学修支援
—新入生への支援に留意して—
参加者アンケート

当日参加者数：215名

アンケート提出数：78件

千葉大学アカデミック・リンク・センターは、教育関係共同利用拠点として、「教育・学修支援専門職」の養成のために必要な研修プログラムの構築・運営の準備に取り組んでいきます。今後の活動のために、本日のオンラインシンポジウムに参加されたご意見・ご感想をお寄せください。

なお、記載いただいたご意見・ご感想は、個人名・組織名が特定できないかたちで公開する場合があります。
(公開にあたり、一部事務局により表現を調整いたしました。また、一部内容は非公開といたしました。)

1. 本日のオンラインシンポジウムで、よくわかったこと、新しい発見などがあればお書きください。

- ・田中先生の公演が印象的でした。
- ・具体的な取り組み内容をご教示いただき大変勉強になりました。
- ・コロナ禍という特殊な状況ではあるが学生支援の立場から現状を理解することが基本。
- ・高石先生からのお話で、被災経験を受けた実感のこもった学生支援の知見が大変参考になりました。
- ・すでに疲弊している学生がいること、とその対応については気がついていませんでした。
- ・学生の心理状態にあらためて目が向きました。どうしても、授業内容が理解できているのか、授業の満足度はどうかという点を重視しがちであり、その数値がよいと「ほかになんの問題が」と思いがちですが、見えないところが可視化されたように感じました。
- ・学生も教職員もオンライン授業初心者であるため、お互いに理解し協力しようということを学生にも呼びかけることが本学でもできればよかった、と感じた。
今後の大学の在り方についてあらためて考えるいい機会になりました。
また、学生のケアの部分で具体的にやってみたいこともお話しいたきましたので、実際に企画してみたいと思います。
- ・本学の対応は意外に間違っていなかったということが確認できたことがうれしいことです。この事態は、大災害に匹敵するものであり、現在もその渦中である、ということは対面が始まったことで気が付いておりませんでした。
- ・大学の規模や学生数、立地によっても大きな差がある中、準備性について本学と比べることも出来ました。医療福祉系での実習や演習の工夫などが話題提供いただけたら幸いです。
- ・オンライン授業にはちょっとした息抜きの時間や、雑談の時間が重要だということを実感した。また、保護者が受講している場合もあると聞いて驚いた。新入生のおかれている状況を理解することが大切である。
- ・コロナ禍における新入生への支援が必要であることは思っていたが、具体的な心理状態や置かれている状況等整理でき、どのような支援を考えることが出来るのかを具体的に考えていく手だてをいただいたと思っている。
- ・コロナ禍での生徒対応に加え、初任者の私には学びの多い時間でした。“田中先生—対面+オンライン併用の授業における課題 高石先生—学生の学年段階別の今後のケアの考え方”
- ・大学によって後期のオンライン授業と対面授業の割合など、事情が全く異なることがわかりました。
- ・コロナ禍での学生の状況について、抑うつ・無力感の段階になっており、この後退学等も含め、様々な問題点が顕在化してくるというお話に非常に危機感を覚えました。
大学によりいろいろな取り組みがされていることと同時に、どこでも試行錯誤ですすめられていること。
- ・甲南大学の学生相談室の事例が参考になりました。学生全員が「本来あるはずだったキャンパスライフの喪失」を体験しており、これから「抑うつ・無力感」が高まるリスクがあること、肝に銘じたいと思います。

- ・各大学様の取り組み事例を具体的に紹介いただき参考になりました。ハイフレックスという用語も（これまではハイブリッド型授業という言い方で理解していました）勉強になりました。学生支援ではとても丁寧に寄り添うような支援をされているのを伺い、自分が大学生だったころ（数十年前ですが）に比べずいぶん進歩したのだと感じました。
- ・今後の新生は大学入学に至るまでの基礎学力が現在の学生よりも不十分であり、より丁寧な学修支援が必要であることを再認識した。今提供している入学前教育のプログラムを再考していきます。
- ・コロナ禍における他大学の取り組みがよくわかりました。文科省が言っている「全人的教育」はオンラインのみではできません。しかし、コロナがなければ見えなかったこともあるので、この環境のなかで、何が必要なかを再度考えてみたいと思います。
- ・コロナ禍という共通の状況に直面しているにもかかわらず、その対応には大学による違い、地域による違いが大きいこと。東京工業大学や甲南大学といった伝統ある大学でも種々ご苦労をなさっておられることが良く分かりました。また、本大学も比較的早期に対策・対応を進めていたということも分かりました。
- ・対面授業が再開してきて、それで学生の精神的な負担の面は改善されるか、と思っていたところがありました。しかし、高石先生のお話で、個々の状況で出てくるさまざまな問題についてはこれからだ、というお話があり、認識を改めて、必要な場合には学生を1人でも支援につなげられるように、意識して授業などに取り組みたいと思いました。
- ・学生自身のみずから力で気づきを得られたり、自分の思いを言語化したりできるよう、授業だけでなくポータルサイト、大学HP、キャンパス構内など、大学の教職員が些細なところから空気感を作っていくことが、まだまだこれからでもやっていけると感じた。
 新生が置かれている状況が想像以上に深刻であること。
 雑談・息抜きなど無駄なものに人間は支えられていること。
 大学のキャンパス・場が持つ、授業以外の必要性
- ・高石先生のお話で、新生が深刻な場合があることのほか、他の年次においても異なる問題を抱えることが分かった。
- ・コロナ禍における開講スタイルの多様化が垣間見れるような気がしました。今後もコロナと共存しながら大学運営しなければならない状況下において、教職員含め、あらゆる学内の機関が協力しながら新しい学習スタイルを作り上げなければいけないと強く感じました。
- ・学生支援を含めた、これからの方向付けについて多くのヒントをいただきました。
- ・新生は大学入学というセレモニーを行うことなく時間が過ぎてしまい、大学生活に馴染むプロセスを経ないまま、大学での学び方や周囲と自分の立ち位置への気づきがないまま、今を過ごしている。それが今後じわじわと影響が出てくるのだということが両先生の話を通じて、改めて明確に客観視出来た。また、高石先生のおっしゃっていた「機会を失ったことの自覚さえない状況」という言葉が印象に残り、大学として切実な問題のひとつであることを実感した。
- ・コロナの影響で都市部の大学ではどのような現状になっているのかを知ることができた。
- ・大学教員として当方も遠隔対応をしていますが、漠然と捉えていた自分の経験をまとめて頂き再認識させて頂けたことと、新しい気づきが得られた点が良かったです。
- ・コロナ禍における新生の実態について知ることが出来た。
- ・他大学における、遠隔授業スタートに向けての学内の準備状況事例がわかった。
- ・コロナ禍における海外を含めた他大学の取り組み
- ・新生に対するケアが大切だという事がわかりました。漠然と考えていたことや経験したことがより鮮明に概念として理解できました。

- ・実際に本学の演習ではハイフレックスの状態で行っていましたが、そういう言葉も知りませんでした。その授業の進め方の要点等について、十分に理解しないまま行っていたところがあり、とても勉強になりました。また、コロナ禍における大学生の心理状態について理解するための知識や新入生の置かれている
- ・状況に対する理解が深まりました。特に、新入生にキャンパスライフを提供すること、という言葉は改めて心に留める必要があると思いました。ありがとうございます。
- ・他大学の状況
- ・対面で学習したり人的交流をすることの大切さ”
- ・他大学のセンターの活動状況 他大学の教育運営の状況
- ・オンライン授業のよいところはあるが、今回の事態ではそうしたことを検討する間もなくスタートしたので、これから検討することが必要だろう。対面にしても出席できない学生に対しては、オンラインを用意しているが、対面している学生もそれを活用するとなると、対面はなんだろう、ということにもなり、難しい。
- ・オンラインのよさや取り組みを紹介してくださったので、いろいろと考えたい。
- ・両先生の刺激的なお話で、楽しく拝聴できました。新入生にどうやってキャンパスライフを提供するのか、というのはとても大事な視点かと思いました。また、遠隔では雑談などが失われてしまう、と云うのも、本当にそう思います。大学での学びが何かを、問い直す機会なんだなあ、と感じています。
- ・高石先生のお話から、新入生と2年生以上が抱える課題の違いの捉え方について貴重な示唆をいただきました。
- ・高石先生の臨床心理学の立場からみた大学学生の状況。田中先生の授業に対する取り組み姿勢。学生はこちらが考えている以上に、悩んでいるのだと思った。このような状況でも、どうすれば横の繋がりを築くことができるのか、改めて考えるよい機会となった。
オンラインは何があるか分からない。臨機応変な対応が必要であることが分かった。
- ・田中先生が指摘されたDPの問題は新しい視点として学ばせて頂きました。
- ・学生のメンタル面での時間的変化（喪失体験後の心の反応の変化）について、コンパクトに説明されていてわかりやすく、納得の行くものだった。
コロナの影響で新一年生について、支援の必要の学生が出てくる話について、納得いたしました。
本学は後期から対面授業を実施しており、1年生が一番楽しそうに同級生とキャンパス内をウロウロしている様子が見受けられます。その気持ちが続くように支援をしていきたいと感じました。
- ・大変興味深い内容でした。田中先生、高石先生、ありがとうございます。遠隔授業（オンライン）になったことで、気付くことができたもの、失ったもの、補うべき必要があるものなど、様々なことがあったなど講演を聴きながら思い返すキッカケになりました。学生一人ひとりに寄り添った対応を学内で今一度共有しなければいけないなということを再確認させていただきました。学生たちが本学に入学してよかったと思える教育を、私自身も考え直したいと思いました。（まとまりのない内容になったかもしれませんが、大変有意義な時間でした。ありがとうございました。）
- ・コロナ禍による学生（そして教職員含む広く一般の人々）への影響は、大震災を経験した時と似ているとの高石先生のご指摘。
- ・コロナ禍における学生生活や授業の方法など、支援について大学・学生の双方が模索しながら進めていく必要性がよくわかりました。また、多くの学生への心理的なサポートが重要であることを再認識できました。
コロナ禍の学生の心理状況が思ったより深刻であることがわかりました。
- ・対面授業を再開したからといって、学生（特に新入生）の喪失感を埋められるものではないこと、新入生の状況や心理について段階を追った説明で分かりやすかった
- ・コロナ禍での学生への支援は、その大学が標榜する学生に対する思いの強さだけでなく、現実的にそれを

可能にできる機能をもち実践すること、であることを改めて感じさせられた。どうもアリバイ的な支援の宣伝が目立つ今日、有益な内容だった。他大学の状況として講師の先生方の、大学での様子を聞くことができただけでも収穫です。

- ・ どの大学も同じ悩みがあると痛感しました。また、同時に事前準備や予測の大切さを感じました。
- ・ オンライン授業を行う際に、大学として決めておく必要があることなど詳細に分かった
- ・ 各大学とも対コロナ対策は同じである事への安堵感
- ・ 新入生に対する配慮についてシンポジウムでご紹介いただいた事例が参考になりました。
- ・ 新型コロナ感染症対策について他大学の対応がよくわかった。本学の対応策も試行錯誤ではあったが実施時期にずれはあるものの同じような内容だったこと、これから新1年生に手厚いフォローが大切であること。1年生と2年生以上では対応の仕方が違うことなど大変勉強になりました。他大学の状況について伺えたのは、興味深かったです。
- ・ こんなにも相談を必要としている学生や保護者が多くいるのかと、はっとさせられました。また、ハイフレックスについての講師の先生のご意見を伺えて、納得できました。
- ・ コロナ禍での大学生の心理状態、特に新入生の置かれている状態については、本学でも支援が必要になる事例があったことから共感することができました。学生支援策について学ばせていただきました。東工大ではオンラインに対しての専門家が早く対応の早さが素晴らしいと思いました。ハイフレックスの形がどこまで本学で取り入れることができるのか、情報センターの職員に聞いてほしい内容だと思いました。
- ・ 高石先生の「同じ場所に身体をもった人間がいる」ことの大切さ。東工大がしっかりとFDを進めていた現状に驚きました。
- ・ 本学ではコロナ対応に注力していたため、様々な大学業務を止めた例がありましたが、コロナを『前向きな改革の機会』として捉え対応している法人の姿勢が素晴らしかったです。”
- ・ 何気ない歩み寄りで救われる学生がいることを忘れないように、という付言がいいなおもいました。教育支援として先生にご依頼の時、このような一言が、提供側の結束を生むのかなと感じました。
- ・ 弊学は地方校かつ小規模校であるので状況は大きく異なりますが、他大学さまがどのような策を講じられているのかを知ることができ、貴重な機会となりました。
- ・ 学生支援の具体例が、よくわかった。
- ・ コロナ感染拡大に伴う他大学の対策を知ることができ参考になりました。
- ・ 震災後の学生たちが数年後にどのようなようになるのか、という具体的なお話がきけて参考になりました。
- ・ カウンセラーがメイン業務なので、オンライン講義の問題点や今後の展開をお聞かせくださったことは、今後の教育システムの理解に繋がりました。また、「場」と場で感じるものがいかに私たちを支えて来たかを改めて実感しました。
- ・ 他大学の状況を知ることができた
- ・ HyFlex が現実的には難しそうだということ。Zoomなどの遠隔授業になって、良い面も悪い面もあると思っただけでしたが、「新入生はキャンパスライフを喪失していることがわかっていない」ということは本当にその通りだと思いました。また、対面授業だと得られていた雑談や隣の席の友だちから学ぶ、息抜きなどができない、誰に相談すれば良いかわからないこともストレスだろうと思いました。
- ・ 遠隔授業を行う中で講師の先生は学生だけでなく、非常勤教員や職員のことまで考えて取り組んでおられたことに驚きました。対面授業再開が問題の解決策ではない。”キャンパスライフの喪失”が、今後の教育・学修支援を考える重要な視点となる。今まで検討・重要視されにくかったキャンパスライフが、学生の学びにいかに大切であるかを、私たちが現在も認識（体験）している最中である。
- ・ With コロナ、Post コロナに向けて、さらなる連携・協働が望まれる。キャンパスライフの喪失を経験した学生への支援が重要である。

- ・学生の心理状態がどのような経過をたどるのがわかりました
- ・大学により、学生により、状況が異なることを改めて感じました。

2. 本日のオンラインシンポジウムで、よくわからなかったこと、疑問に残ったことがあればお書きください。

- ・ハイフレックスの話はもう一度別途聞きたかったと思います。
- ・本学は、対面授業を開始して、オンライン授業はこれから整備をしていく段階にあるが、どのような課題が出てくるのかをもう少し知りたかった。
- ・全国的な大学のコロナ対応がわからなかったため、自大学の現在の立ち位置がつかめなかった
- ・勉強不足で田中先生の説明の中にいくつかわからない言葉がありました。
- ・特にありません。シンポジストの方々の説明が分かりやすく、理解できました。
- ・質問でもありましたが、潜在的に困難を抱えている人のキャッチが難しいと思います。一人ひとり丁寧な聞き取りをしても見えてこない部分もあるので・・・
- ・大学による学生支援を学生自身がどのように受けとめているのか。
- ・対面授業のメリット、通学させることのメリットを文部科学省やメディアが煽るように書き立てたりしますが、日本国内における新型コロナウイルス感染症の拡大が諸外国と比べて抑えられている背景には学校による我慢の貢献度も大きいと思いますが、そうした社会学的なアプローチは、どのように考えられますか。
- ・“田中先生から「各先生方の授業の工夫や体験を研修会で」とお話がありましたが、そうした企画だけでなく、日々の業務のなかでどれだけ大学の教職員間で体験を共有していけるのか、そうしたコミュニケーションの工夫など。
- ・今後の方向性や可能性など少しでも将来視点があればもっと良かったのかなと思います。これはわれわれ教育担当者達が考えていかなければならず、かつ、今後の状況は誰にも不透明ではありますが...
- ・新入生への今後のケアについて、どの程度のスパンを見通せばよいか。
- ・定期試験の実態（オンライン学習での効果は対面授業と比較し、学生の成績はアップしたかどうか）
- ・まだまだ、知識不足でもっと知りたいことはたくさんありました。
- ・学生生活サイクルの考え方や文理不安等の概念についてはもっと深く少し知りたいです。また、田中先生のアンケート結果の分析やコミュニティに向けた帰属意識の部分のお話はもう少しお聞きしたかったです。”
- ・今後どう取り組めばいいのかは、誰もわからないと思うがさらに難しさを感じた。
- ・田中先生の特に私見の所等、自分なりに再度聞き直し噛み砕く必要ありかと。
- ・高石先生のお話をお聞きして、高等教育機関がそこまで学生の世話を焼く必要があるのか、世話を焼き過ぎて精神的に非常に幼いまま社会に出て行くことが学生にとって大きなマイナスになるのではないかと、という危惧を抱きました。そのような学生でも受け入れざるを得ない学納金偏重の私立大学の収入構造があるとはいえ、情け無い気持ちになりました。
- ・田中岳先生は、以前よりお世話になっております。興味深い話が多いのですが、難しい話も多く、もう少し、時間があればと思いました。
- ・わからなかったというより、今後理解を深めるために、もっと調べたいと思ったのが、Hyflex型の授業モデルについてです。田中先生は、ハイフレックスは難しいとときりにおっしゃっていたが、どのような課題があるのか今後調べていきたいです。
- ・東工大は教員全てがZoomだったのでしょうか？当校は教員によってZoomだったり teams, Webex だったり、プラス LMS だったりとバリエーションがあって慣れない学生は混乱したようなので。もし Zoom オンリーなら、どうやって決めたのでしょうか？（元々全学で Zoom 利用だったのでしょうか）
- ・よく理解できた。
- ・来年度の動向や展望

- ・学修支援という講演タイトルから、教務視点の支援が中心かと思っておりましたが、学生へ対するケアの具体的な事例が中心でしたので、講演タイトルをより具体的に絞って頂ければとも思いました。
- ・実戦経験がないので、どの程度理解できたかが、自信がない。
- ・キャンパスライフの定義
- ・ハイフレックスという言葉は初めて聞いたので、講演の中だけでは理解できませんでした。勉強不足ですみません。
- ・来年の1年生への支援

3. 大学における教育・学修支援の在り方についてのお考え、教育・学修支援のために必要と思う資質・能力、また、教育・学修支援のご所属先での取組事例やご存知の特徴ある事例などがあればお書きください。

- ・現在教務課におりますが、学生課にも所属していた時期があったため、キャンパスライフの充実も含めてが学習支援であると考えておりました。先日、学祭の代わりに、学祭実行委員が発案した学内イベントがあったのですが、学生同士で交流を深めること、大学への帰属意識を高めることの重要性を再認識いたしました。
- ・本学は小さな大学なものですから、教育・就職支援を年2回（以前はもっとやっておりました）行いますが、本年度は1回のみで予約制の遠隔で行いました。遠隔で行うことで保護者学生ともども担当教員との面談で、帰属意識等も獲得ができたようにも思います。準備は大変だったようですが、ネット環境の差はやはり出ました。
- ・居場所支援が求められていて、活用されるように整備することが重要である。
- ・変化する学生の傾向を掴み、有効な教学マネジメントとすることが必要であると考えます。
- ・所属大学においても学生支援に関する学内情報共有の会を実施しましたが、学内にとどまらず、他大学の事例についても積極的に情報をキャッチしていきたいと思えます。
- ・問い合わせを受けた学生への丁寧なヒアリング。本音を引き出すまでの根気ある対応。経験の共有が大事だと思います。前期は課を横断して、授業支援チーム「remote チーム」を構成し、専任・非常勤・学生を対象にして対応にあたりました。
- ・そもそも日本の大学は、授業の時間数（取得しなければならない単位数）が多いのではないかと思います。例えば、文系学部等で標準的に124単位ですが、過去、132単位の時代から削減した状態で既に数十年を経過していますので、設置基準上の卒業要件単位数につきましても改善の政策をして頂いたうえで実のある学修支援を要件付けることが大切と考えます。
- ・ピアサポーター制度がありますが、今年度は中止ということにしたのですが、どうするのがよかったのか、何かの形でできたのではないかと、後悔があります。
- ・学生自身の体験に寄り添えること、同じ学修者としてかわれることが、大事ではないかと思っています。
- ・附属図書館での、オンライン・ラーニング・アドバイザーの取組、
- ・こちらの項目に記載する内容ではないかも知れませんが…学生相談の仕組み作りと、感染リスクを考えて対面に参加することを怖がる学生への配慮申請（※）等、授業以外での学生支援は非常に重要なことであると感じました。しかし、両先生が所属されている大学のように教職員が多く所属する中大規模な大学でしたら、専門の方々が検討して仕組みを作ることが出来ると思えますが、小規模な大学（学生数1000人以下、教職員数100人以下）では授業対応など他にやるべきことがあり過ぎて、手が回らない状況です。特に（※）の項目など教育機関として重要視すべき内容は、文科省など教育を司る機関で、ある程度の指針を決めて頂くことが出来ないものか、と考えてしまいました。
- ・本学も目下模索中です
- ・日本の大学職員は、多くの場合、総合職的な採用・勤務になります。一方、今日のように、ユニバーサル化し多様な学生が入学すると、学修支援業務において、従来よりも専門的なスキルが求められます。今後の職員人事政策をどのように考えたらよいかを検討課題の一つであると考えます。

- ・ ICT を駆使できる力、多様性と高い専門性、語学力を含めたコミュニケーション能力
- ・ 人間関係が苦手な学生がオンライン授業で学びが積極的になったのは理解できるが、オンライン授業でも人間関係に苦しむという状況が困難さを感じずる。
- ・ 学習支援は、大学の偏差値などによって、かなり異なると思う。一律のものはないので、各大学や学科にて検討するしかないと感じている。ただ、様々な例を参考にすることで、案が生まれていくので、教員側も学び続けることが求められていると思う。
- ・ COVID に関わるリモート授業には教員・学生共、基本操作（技術も含め）を理解しやすく身につけさせること、またそれを周知し続けること。また同時に COVID 状況下での学生の心的内面に良い環境を創り出すことがバランス的に必要かと思われます。（余韻を持たせた授業等）
- ・ 大学教職員が誰の立場で、どこに視線を向けて業務をするのか。大学のアイデンティティを守るために、変わらないのか、アイデンティティを守りつつ、変革を進めていくためにはどうしたらよいのか。教職員が同じ方向を向くためには、やはり研修が必要となる。
- ・ 一般学生に向けては、学生同士の学びのコミュニティが自然発生的にできるように、そのためのアフオーダンスを備えた施設などがいろいろと試みられ、事例共有が進むといいのではと思います。上位層、下位層学生への支援については、それぞれの現場固有の方向性があるのかと思います。
- ・ 本学では残念ながら自学の状態です。私自身、桜美林の大学アドに入学しました。貴学の我妻先生にはお世話になりました。最終的には自分自身がどうするか、と思いますので、それほど所属先には期待していないのが本心です。
- ・ 大学が支援するという上からの見方ではなく、学生が求めている支援を実施してあげることが重要と思うので、学生の声やアンケート、少人数での対面聞き取りなどから学生のニーズを把握し、それを反映して実施できたらよいと思います。
- ・ 初年次教育科目では学生の通信環境を考慮し、前期はオンデマンド型と資料郵送を併用しての個人学習型を実施した。後期はハイブリッド型で Web 会議システムを使用したチームによる PBL 型授業を展開中。
- ・ お伝えできるような内容はありません。
- ・ 学生支援においてはいかに臨機応変な対応ができるかだと感じています。前例にとらわれず誰もが予測できない事態であるため、失敗を恐れず広い心をもって対応できるのが理想と感じています。
- ・ 私は図書館の職員ですが、どのようにして教務系との連携をする力が職員として第一に必要と思います。
- ・ 本学には、医師は常勤ですが、カウンセリング等対応が必要になった場合は専門医に紹介となっていました。
- ・ 学生にとって、相談できる窓口がないため専門的な対応ができていないことが課題でした。カウンセラーの常勤までは難しいが定期的にでも対応ができる方の雇用を検討したいと思いました。
- ・ 先行事例があまりございませんので、回答を控えさせていただきます。申し訳ございません。
- ・ 今回のお話で、対面授業の重要性を再認識できました。
- ・ 文部科学省よりも、一定の対面授業を確保するように通達があいりましたが、感染リスクの拡大にもつながる為、慎重に検討を重ねているところです。学生、特に新生には例年より手厚い支援が必要だと感じています。個人的に、学習支援（各種ガイダンス）のさいは、自分がディズニーのスタッフになったような気持ちで楽しく挑みます。台本通りではなく、自分で調べたやり話などを取り入れて学生にもその時間を楽しんでもらえるように工夫しています。
- ・ ガイダンスを受けても学生の中に残らないのでは意味がないので、なるべく相手の視線や指先の動きを確認し、意識しながら話を進めたり、実際 PC の前に座ってもらい実践してもらおうようにしています。
- ・ 田中先生が大学の組織としての取り組みだけでなく、一人の人として学生に近づき声をかけて共に歩む姿勢を語っておられました。また高石先生も相談室に来た学生に来てくれたことを喜び、労う姿勢をお話しくいただきました。一番の資質はこのような姿勢ではないかと、心したいと思いました。

- ・教育・学修支援と、学生生活支援や困りごと支援は別物であると考えます。

4. 本日の内容について等、その他、自由にご意見をお書きください。

- ・都合で途中からの参加となったのが残念です。
- ・大変ためになりました。ありがとうございました。
- ・ありがとうございました。
- ・セミナー・シンポジウムでは大変勉強させていただいています。他大学の具体的な取り組みなどが聞けて大変有難いです。ありがとうございます。
- ・学生団体の学習支援に携わっているが、教員側や学生側の意見を知り、その中でできることを考えることが重要である。先生側でも Zoom などのツールに慣れている人と慣れていない人がいて、行われる授業の質にも差がでているのではないかと考えさせられた。他部署との連携を図り、網羅的に支援できればと思う。
- ・本日は、本当に有意義な時間でした。学部として、また大学全体としての学生支援の取り組みのヒントをいただいたため、具体的な取組を考えていけそうです。
- ・ありがとうございました。”
- ・ありがとうございました。
- ・本日は貴重なお話をいただき、本当にありがとうございました。
- ・とても参考になる事例の紹介ばかりでした。参加させていただきありがとうございました。
- ・ありがとうございました。
- ・トラブルを経験できたことが逆によかったです。学生の不安な気持ちがよくわかりました。柔軟なご対応も参考になりました。
- ・地方にいるため、オンラインで実施いただけただけで参加することができました。コロナで図書館総合展をはじめ多くのセミナー、シンポジウムなど各種イベントがオンラインでも開催されるようになったことは、非常にありがたいことでした。コロナ終息後もオンラインでも並行して行ってほしいです。
- ・出身校の高石先生にはお世話になったので、まさかこのような場でお話を伺えるとは思っていませんでした。
- ・他機関で開催しているシンポジウムとはまた異なる視点のテーマで、私が担当している学修支援業務に関わる見解や課題を伺えてよかったです。ありがとうございました。
- ・オンラインで参加でき、非常に助かりました。学生のようなですが、時間と経費の節約ができました。
- ・大変ありがたく感じています。”
- ・良いお話を聴講させて頂き、誠にありがとうございました。
- ・FD・SD を企画をするさいの参考になりました。職員支援について、何か事例を聞けるチャンスがないかと思っています。
- ・限られた時間のなかで多くの視聴者の質問に応えるということも視聴者の側からすれば重要であるとは承知していますが、講演者間でも質問やテーマ振りがあってもよかったのかなと思いました。とはいえ、貴重な機会を企画・運営いただき、ありがとうございました…！
- ・今後は対面、非対面授業が混在することになると思いますが、今のように文科省の要求が多く、余裕のない大学授業形態・スケジュールで対応できるのでしょうか。
- ・高石先生のお話を伺い、対面授業の拡大や課外活動への参加機会などを通して、学生が大学というコミュニティに参加させる意義と必要性を改めて強く認識するようになりました。
- ・とても有意義なセミナーに参加することができました。今後ガイダンスの企画や運営をするうえで、参考にしたいと思います。ありがとうございました。
- ・コロナ禍を振り返ったり、大学の取り組み紹介が長く感じてしまったところもありましたが、「新入生の

支援」について考える機会となりました。2時間超でしたが最後まで興味深く拝聴させていただきました。ありがとうございました。

- ・田中先生の発表にもあったように、受け手（発表では学生、本公演では聴講者）も受け身にならず、一緒に作り上げていくと言う視点が必要であることを再認識させられました。
- ・知らないことが多く、大変参考になりました。また、ぜひこのような機会があれば、参加したいです。
- ・本当にありがとうございました。
- ・ウェビナーという形で参加させていただくことができ有り難かったです。自由に対面で交流できるような状況になった後も、会場で直接参加するだけでなくウェビナーという参加の仕方の選択肢が残ると良いと感じました。
- ・また参加させていただきます。
- ・仕事の関係で抜けざるを得ない時間帯があり、ちょうど聴きたい箇所だったのは残念でした。こればかりはどうしようもないのですが……。
- ・両先生とも自分の立場から良く資料を作成され、ご講義いただき私的には良いセミナーでした。有り難うございました。
- ・とても興味あるテーマでした。ありがとうございました。
- ・様々な大学での現状（対面授業の再開やキャンパスへの入構等）について、知ることができました。
- ・配布資料をダウンロードすることができ、よかったですと思います。
- ・今まで千葉大のシンポジウムだとテーマに惹かれたものがあったとしても遠方だったり業務に直接的な関連がないと出張を言い出しにくく控えていたのですが、オンラインセミナーですと気軽に参加できるので個人的にはよかったです。今後も楽しみにしております。
- ・学生相談室の事務担当をされており、高石先生のおっしゃっていた通り、相談件数がこここのところ増加しています。まだ「相談する」という行動力がある方は良いと改めて感じ、糸口がない方への方向づけの大切さを実感しました。”
- ・各大学の動きや先生のお考えを拝聴できて安心しました
- ・コロナ以後、大学図書館が教育・学習支援にどのように関わったらよいのか、どのように進んだらよいのかをテーマに研修会があると有難いです。
- ・ありがとうございました。
- ・企画、準備、開催等、お疲れ様でした！
- ・授業の個別指導メールを書きながらの、拝聴でしたが、有益だったという感想です。
- ・貴重なお話を拝聴でき、充実した時間を持つことができました。
- ・運営の皆様もご尽力ありがとうございました。
- ・普段は遠いため参加できなかったのですが、今回のようにオンラインで開催してもらえればどこからでも話を聞けるのはありがたいです。
- ・先生方のお志のある取り組みをお聞かせいただく機会をご提供くださり、深謝しております。大変な、先行きの見えない状況ですが、だからこそ自分の取り組み、姿勢が問われるのだと、先生方のお話し伺って身の引き締まる思いです。迷い、悩むことを恐れず、時にこのような機会でご共有させていただき、足場をしっかり固めて、またよりよい業務となるように努めたいと感じました。ありがとうございました。
- ・田中先生のお話をもう少し詳しくお聞きしたかったです。
- ・Zoom 授業になってから私は学生と関わるのがなくなり（職員は授業に出ないので）、学生の顔を見ることも様子もわからず、特に会ったこともない新入生のお困り状況をどのように見つけて支援していけばよいのか、改めて考えさせられました。
- ・今回のセミナーのご準備をありがとうございました。”

